

## 4 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 催 日 平成 28 年 4 月 7 日 (木)
- 2 開 催 場 所 新館 10 階 大会議室
- 3 出席した委員 吉田委員長、森委員、坂元委員、廣岡委員、田淵教育長
- 4 出席した職員 諏訪教育総務部長、日浦教育指導部長、  
平田教育総務部次長、谷池教育指導部次長、  
小西教育総務部参事、大西教育指導部参事、  
吉田教育総務課長、三村教育総務課主幹、  
竹中学務課長、野村社会教育・スポーツ振興課長、  
石川学校教育課長、長瀬青少年育成課長、  
中田教育研究所長、梶浦文化財調査研究センター所長、  
脇谷少年自然の家所長、竹内中央図書館長、  
山野教育総務課副課長
- 5 傍 聴 者 2 人
- 6 議 事 の 要 旨
  - 開 会 午後 3 時 50 分
  - 会議録署名委員指名のこと  
吉田委員長、廣岡委員に決定
  - 3 月 臨 時 教 育 委 員 会 会 議 録 報 告 承 認 の 事 項  
(事務局より会議録朗読報告)  
承 認
  - 会議公開の可否決定のこと  
全ての議事を公開することに決定

(説明事項)

1 平成 28 年度 教育委員会 新規・主要事業の概要について  
(教育総務部次長及び教育指導部次長から説明)

委員 : 雨水貯留施設整備事業について、中学校には災害時の避難所としての役割があるので、雨水貯留施設としての役割を持たせる場合は、避難所運営計画との関係を良く整理して取り組んでもらいたい。

事務局 : 関係部局とも調整しながら、今後の対応を検討していきたい。

委員 : 外国人児童生徒サポート員を週 1 日程度配置するということであるが、これは新規に配置するということか。

事務局 : これまで県が実施していた同様の事業が縮小されたことに伴い、その部分を補完するために、市の事業として予算化し配置するものである。

委員 : 週 1 日程度でどのような効果が見込まれるのか。

事務局 : 言語が違う環境の中で適応に困っている子どもの相談先としてサポート員を配置することは、週 1 日程度であっても子どもの心の安定に寄与していると考えている。

委員 : 県の事業として実施されていた事業の規模が縮小されることがよく見受けられるが、県としてはそれが適正な規模だと考えているという理解で良いのか。

事務局 : 県は、そもそも市が実施すべき事業だという考えであり、市において予算措置を行うなどの対応を求められてきた経緯がある。

委員 : 外国人児童生徒サポート事業の現状等について、改めて説明をお願いしたい。

事務局 : 平成 28 年度においては対象児童生徒が 6 名であり、1 日当たり 4 時間のサポートで 103 回の派遣を予定している。

委員 : 中学校給食準備事業として両荘中の配膳室の実施設計が予算計上されている。ただ、中学校給食実現に向け、それ以外にも様々な取組が進められているところであると思うが、状況を教えてもらいたい。

事務局： 現在、中学校給食として提供すべきメニューの内容を検討しているところである。メニューを決定した後、そのメニューを提供するために必要な建物や設備、搬送ルート等を検討することになる。

委員： 小学校と中学校ではメニューが異なるという理解で良いのか。

事務局： 既に給食が実施されている志方中学校においては量の違いだけであるが、やはり中学生と小学生では必要なカロリーや栄養素に差があるため、望ましいメニューのあり方について検討しているところである。

事務局： 両荘中学校の給食においては、導入当初は志方中学校と同じように量の違いで対応する予定であるが、新たな給食センターの設立が予定されている中、最終的には小学校と異なる中学校給食独自のメニューを検討していきたいと考えている。

委員： 教育行政に対して市民の関心が高まる中、予算だけでは表れてこない取組内容や進捗状況についても、ホームページ等においてPRしていくことを事務局として検討してもらいたい。

委員： 高校女子ソフトボールの全国大会の運営費補助金が予算計上されているが、この大会が加古川市で開催されることにより、どのようなメリットが見込まれているのか。

事務局： 選手の中には、東京オリンピックのジュニア指定選手に選出されている方もいると聞いている。そのような選手の活躍を直接見ることは、市内の子どもたちにとってとても良い刺激になると同時に、大きな大会の運営支援という面からボランティア活動の活性化を見込んでいる。このように「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」の観点から、本市のスポーツ振興を図る上で絶好の機会になると認識している。

委員： そのような趣旨が市民に伝わるよう、パンフレットの作成等を通じて広く周知してもらい、少しでも多くの市民が参加するような大会になるよう取り組んでほしい。

(専決報告)

1 加古川市立学校校区審議会委員の任命について

(教育総務部次長から説明)

承認

委員：教育委員会としては中学校区連携ユニット12を推進しているところであるが、一つの小学校の児童が異なる中学校に進学する地域があるなど、校区のねじれによりきれいなユニットが実現できていない実情がある。この状況についてはどう考えているのか。

事務局：校区のねじれに関しては、継続して問題意識を持っているところであるが、直接的な解決策が見出せていない状況である。ユニットの活動は本来中学校区単位であるが、該当地域については2つのユニットが連携することにより、ねじれによるデメリットを解消するよう取り組んでいるところである。今後、校区審議会での議論等を通じて検討を進めていきたいと考えている。

2 学校医等の委嘱について

(教育総務部次長から説明)

承認

委員：それぞれの医師の担当校がどのように決められていくのか、経緯を教えてください。

事務局：医師会、歯科医会、薬剤師会からの推薦に基づき、担当校を決定している。

委員：検診の場も一つの教育の機会であると考えため、医師等に対するマナーや態度についても、児童・生徒にしっかりと身に付けさせるよう教職員に指導してもらいたい。

### 3 加古川市社会教育推進員の解職及び委嘱について

(教育指導部次長から説明)

承認

委員：名簿の標題に「社会教育・福祉教育推進員」という表記が見られるが、これは適切であるのか。

事務局：名簿に記載している方は、社会教育推進員と福祉教育推進員を兼ねている方であるが、教育委員会からの委嘱としては社会教育推進員のみとなるため、表記を改めたい。

### 4 加古川市少年補導委員の委嘱について

(教育指導部参事から説明)

承認

委員：氷丘南地区や野口地区等、全員が未経験の委員となっている地区があるが、職務内容の引継ぎ等も行われているのか。

事務局：できるだけ経験者の方に残ってもらえるよう依頼はしてきたところであるが、地域の事情等によりやむを得ず全員が新規委員となった地区がある。ただ、そのような地区については、前任の委員にしっかりと引継ぎを行っていただくよう依頼している。

委員：名簿に空欄の部分があるが、これは今後充足されるものと考えておいたら良いか。

事務局：全体で2名欠員している状況であるが、町内会長等に推薦を依頼しているところであり、今後随時委嘱を行う予定である。

### ○ 次期定例教育委員会予定日のこと

5月12日(木)午後4時から開催することに決定

## ○ 教育委員諸報告

〔森委員から〕

### (1) 平岡中学校卒業式について

平岡中学校では、校歌等に加え生徒が自分たちで作成した歌を歌っており、非常に興味深く感じた。

## ○ 教育長諸報告

### (1) 平成 28 年第 1 回市議会（定例会）における代表質問について

3月4日に代表質問があり、教育委員会関係では、中村亮太議員から、大項目「中学校給食について」のうち「早期実現について」、松本裕一議員から、大項目「次代を担う子供達が快適に学べる環境づくりに向けて」のうち「加古川市の小中学校給食の今後について」、「中学校給食開始に伴う設備改修の圧縮と普通教室へのエアコン設置について」、「小中一貫教育への取り組みについて」、村上孝義議員から、大項目「教育環境の整備とスポーツ・文化の振興について」のうち「良好で快適な教育環境の整備について」、「スポーツ・文化の振興について」、大項目「連携中枢都市圏・ゼロ予算事業・中学生議会・ホテル誘致について」のうち「中学生議会への対応について」の質問があった。

それぞれの質問の趣旨と答弁の要旨を簡単に説明する。

### (2) 平成 28 年第 1 回市議会（定例会）における一般質問について

3月7日、8日に一般質問があり、教育委員会関係では、松本裕之議員から、大項目「新中学校給食センター建設について」のうち「新中学校給食センター建設に関わる業者選定について」、「学校給食衛生管理基準 HACCP（ハサップ）等について」、落合誠議員から、大項目「子どもの貧困対策とひとり親家庭支援について」のうち「子どもの無料学習支援やひとり親の交流の場の提供について」、白石信一議員から、大項目「子どもの学習支援事業について」のうち「学校をプラットフォームとした子どもの貧困対策について」、「中学生に対しての学習支援について」、稲次誠議員から、大項目「加古川市の歴史的財産の活用について」のうち「歴史的財産のPR方法について」、「古墳など史跡の管理について」、西村雅文議員から、大項目「教科用図書出版会社による謝礼問題について」のうち「問題全般について」、「文部科学省からの通知について」、「兵庫県教育長の答弁について」、「尼崎の事例について」、「採択の公平性の確保（再発防止）について」の質問があった。

それぞれの質問の趣旨と答弁の要旨を簡単に説明する。

### (3) 平成 28 年第 2 回加古川市議会（定例会）日程について

6月10日から22日に開催される。

○ 教育総務部長諸報告

(1) 平成 27 年度 学校園への不審者等情報提供件数

平成 27 年度は、学校園に対して、不審者・変質者等の情報を合計 61 件発信した。

以上、1 件について報告

○ 教育指導部長諸報告

(1) 「平成 28 年度 指導の重点」について

「第 2 期ひょうご教育創造プラン」に基づき、本年度の教育活動の指針となる「指導の重点」が作成、配布された。

(2) 青少年育成課（教育相談センター、少年愛護センター）における相談の状況について

平成 27 年度中の青少年育成課における教育相談の受理状況について報告する。

委員： 全体的に相談件数が増加していることについてはどのように受け止めているか。

事務局： 家庭事情が原因となる問題行動や不登校が増加している。また発達障がいを伴う子どもの増加により、指導無視といった問題も増加するなど、学校現場だけでは対応が困難な事案が増えているため、関係機関と連携しながら全面的にバックアップしていきたいと考えている。

委員： 確かに、相談対象となる事案が増えていることも相談件数増の一因であるが、青少年育成課が相談しやすい環境を構築し、真摯な対応を続けてくれていることが相談件数増につながっているとも考えられる。受け入れ体制が整備されている現在の状況は誇るべきことであるので、今後も継続して取り組んでもらいたい。

委員： 少年愛護センターでは、「教師・学校の指導」に関する相談が多くなっているが、その背景について説明をお願いしたい。

事務局： 少年愛護センターでは、中学生の反社会的行動を主な対象としていることから、教師・学校からの相談が多くなっている。一方、教育相談センターでは小・中学生に関する不登校や発達・情緒に関する問題を主に取り扱っているため、保護者からの相談が多くなっている。

(3) 平成 27 年度教職員の研修事業実施状況及び平成 28 年度の実施計画について  
平成 27 年度に実施した教職員の研修事業の実績及び平成 28 年度実施予定の研修  
について報告する。

(4) 「家庭教育 1・2・3」について  
昨年度改訂作業を行い完成した。新 1 年生と関係機関に配付する。

委 員 : これまでの議論が反映され、とても良いものができたと思う。7 ページの家庭教育チェックリストについても、しっかりと活用してもらえよう、今後 PR に努めてもらいたい。

(5) 教科書問題に係る教職員の処分について  
先日委員に報告した内容のとおり処分を行った。

委 員 : 教科書問題については本日も新聞に関連記事が掲載されていたが、根深い問題として注目されている。昨年度、本市においても中学校教科用図書の採択を行ったが、2 市 2 町の調査員や選定委員、また教育委員には問題行動がなかったことが報告された。ただ、疑いを持たれるような事案が過去に存在したことは深く受け止め、今後、厳正で公正な選定が引き続き実施できるような仕組みを構築するよう努めてもらいたい。

以上、5 件について報告

○ 閉 会 午後 5 時 20 分